

■ めざす姿

現行戦略

<背景>

- 全国を上回るスピードで進行する人口減少は、本道が直面する最大のピンチである。第1期の北海道創生総合戦略策定から6年が経ち、あらためて人口減少問題への危機感、そして今後の見通し、課題などの認識を広く道民と共有し、人口減少にしっかりと立ち向かい、北海道人口ビジョン（改訂版）で示した人口の将来見通しのとおり、「2040年に460万人から450万人の人口を維持する」との長期展望に立って、この総合戦略がめざす姿を次のとおりとする。

<めざす姿>

**幅広い世代が集い、つながり、
心豊かに暮らせる包容力のある北海道**

<考え方>

- 北海道で暮らす幅広い世代のみならず、道外在住の北海道を愛する方々など、北海道に関係するあらゆる人たちが集い、つながるとともに、未来に向けた挑戦ができる期待感にあふれた大地で、人口減少下においても心豊かに幸せに暮らし続けられるような、包容力のある北海道の実現をめざす。

新たな北海道総合計画（原案・事務局案）

<めざす姿>

※詳細：資料2-1、P3

**北海道の力が日本そして世界を変えていく
一人ひとりが豊かで安心して住み続けられる地域を創る**

戦略策定後の主な経済・社会情勢の変化

<主なもの>

- 人口減少・少子高齢化の進展や将来推計
- 未婚化・晩婚化、女性・若者の転出超過
- 札幌への人口集中の拡大
- 様々な業種における人手不足
- 全国を下回る女性や高齢者、若者の就業率
- 増加する外国人居住者
- エネルギーの安定供給、食料・経済安全保障の高まり
- 脱炭素化やAI・デジタル化などの社会変革
- コロナ禍後の生活意識や行動の変化
- 国におけるデジタル田園国家構想総合戦略の策定
- 国における子ども未来戦略の策定（次元の異なる少子化対策）

これまでの
戦略を土台に

新たな視点や
変化を踏まえる

人口減少下における本道の「めざす姿」について、次期戦略策定に向けて**考慮すべき点について検討**

（例：多様性、公平性、包摂性、繋がり、全員参加、ウエルビーイング、サステナブル等）